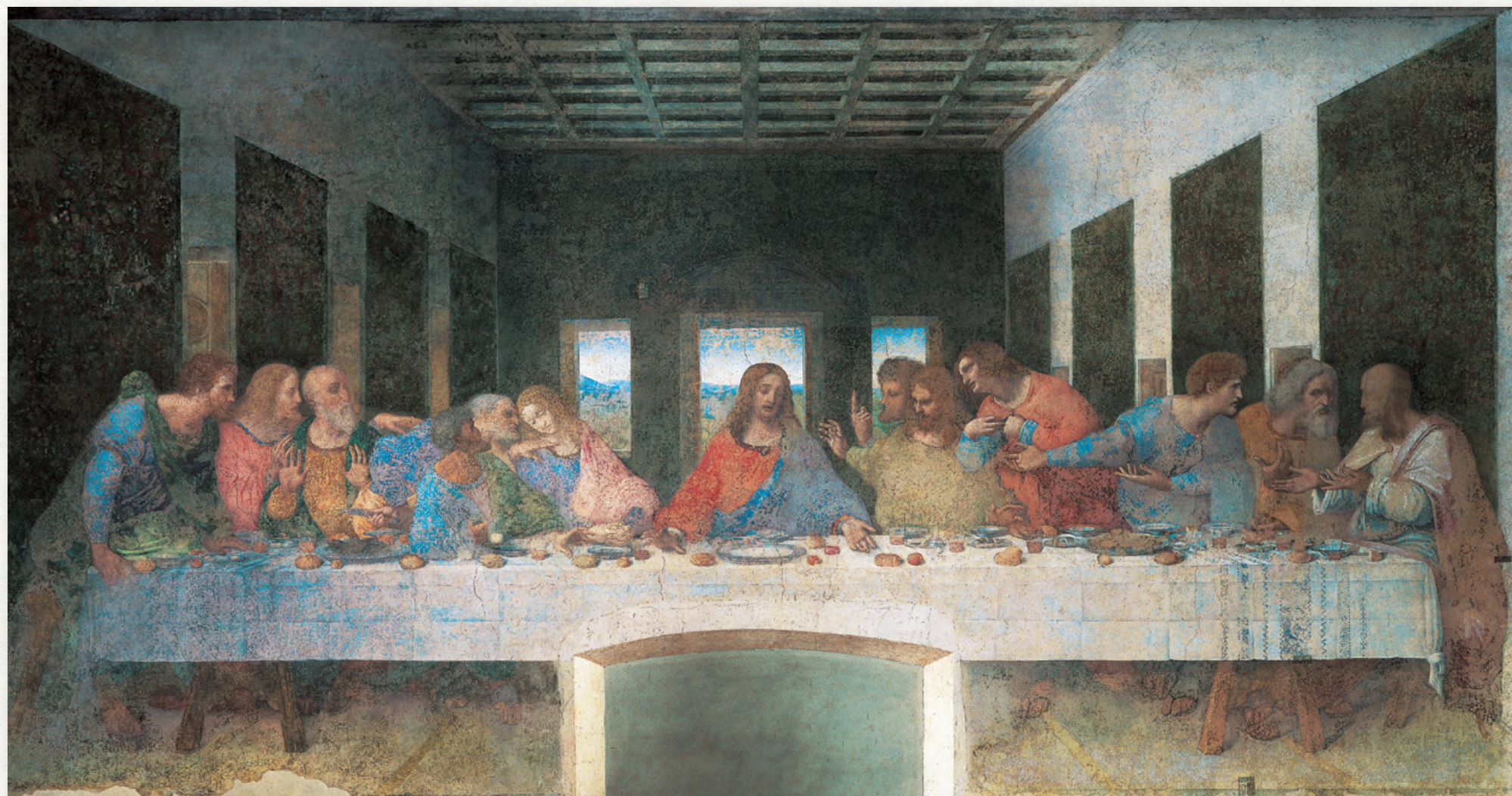




第 23 回

最後の晩餐

レオナルド・ダ・ヴィンチ

壁画 テンペラ 420×910cm 1495～98年
サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院蔵(イタリア)

※中学校教科書『美術 2・3』P.10-13に掲載

セリフが聞こえそうな 波乱の食卓

世界で最も有名な美術作品の一つでしょう。でも本物を見た人は多くないかもしれません。《最後の晩餐》は、500年以上前にレオナルド・ダ・ヴィンチが制作を行ったミラノの修道院に今もそのままあります。だってこの作品は壁画、つまり建物の壁に描かれているからです。建物にくっついているから、実物を見たければ遠くイタリアまで行くほかないのです。

でも出かけるだけの価値はあります。作品はがらんとした部屋の壁の上部に描かれています。少し下がって見ると、実際の部屋の壁の線が絵の中の壁の線につながり、中央にいるキリストの頭のあたりにある消失点に向かってすーっと消えていくようです。現場で見ると、この作品が一種のだまし絵の効果をもっていることが初めてわかるのです。

描かれているのは聖書に出てくる「最後の晩餐」の場面です。弟子たちと夕食をとりながら、キリストは、この中の1人が私を裏切るだろう、と語ります。

キリストと12人の弟子は全員がテーブルの向こう側に並んでいて、ちょっと不自然です。まるでテーブルの

こちら側にいる私たちに向かって劇を上演するかのようです。弟子たちは3人ひと塊になり、左右にふた塊、6人ずついます。身振りはみな大げさで、だから聖書のお話を知らなくても、キリストの爆弾発言が弟子たちに波紋を広げるようすがよくわかります。

たとえば、キリストの右隣の3人は直接その言葉を聞き、「どうしてそんなことを言うんですか」と反発しているみたいです。その隣の青い衣装を着けた人は、「隣の3人によるとキリストはこんなことを言っているそうですよ」と右端の2人に伝え、聞いた2人は、え、本当に？と戸惑っている。つまりこの作品は、中心から両端に向かって伝言が伝わるまでの時差と、それが弟子たちに順々に引き起こす心の揺れを、みごとに描いているのです。キリストの近くに座りながら固くなって思わず身を遠ざける「裏切り者」がどの人物か、あなたはわかりますか？

ちなみにこの部屋はもと修道士たちの食堂だったそう。だから絵の主題もご飯絡みなんですね。ご飯を食べながらだまし絵内の空間にいざなわれ、修道士たちは、まるで自分もこの晩餐に参加しているように感じ

たかもしれません。

千葉県生まれ。横浜美術館 館長。
千葉大学大学院修了。
東京国立近代美術館勤務を経て2020年より現職。
2013年、第55回ヴェネチア・ビエンナーレ
国際美術展で日本館キュレーターを務め、
特別表彰を受賞(アーティスト:田中功起)。
2020年4月より横浜トリエンナーレ
総合ディレクターも務める。主な著書に
『もっと知りたい 岸田劉生』(東京美術)など。

蔵屋 美香
くらや・みか